

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	八戸工業高等専門学校
2. 所在地	青森県八戸市大字田面木字上野平 1 6 番地 1
3. 学科等の構成	準学士課程：産業システム工学科 専攻科課程：産業システム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：） J A B E E 認定プログラム（専攻名：） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の 5 月 1 日現在）	学生数：8 9 3 人 教員数：専任教員 6 4 人 助手：0 人
(2) 特徴	
八戸工業高等専門学校は昭和 38 年度に設置され、機械工学科、電気工学科、工業化学科の 3 学科で発足し、昭和 43 年度に土木工学科を増設して 4 学科体制となった。平成 3 年度に工業化学科が物質工学科に、平成 7 年度に土木工学科が建設環境工学科に、平成 17 年度に電気工学科が電気情報工学科にそれぞれ改組された。平成 14 年度には専攻科が設置された。平成 25 年度の創立 50 周年を機に、地域のニーズに即した学科編成とすべく、平成 27 年度から 1 学科 4 コース制と 1 専攻 4 コース制を導入し、現在に至っている。 昭和 56 年度には、地域課題の教育研究施設として廃棄物エネルギー利用教育研究センターが竣工され、総合技術教育研究センターを経て平成 15 年度から地域テクノセンターと改称した。また平成 5 年に設立された産業技術振興会は、地元企業等の会員企業が 178 社に達しており本校への支援がなされている。 本校では、創立当初から「誠実・進取・協調」を校訓としており、専門知識だけでなく豊かな人間性の涵養も重要な教育目的として掲げている。このため、準学士課程の 1 年生で専門コースの枠を取り払った混合学級の編成を行っているほか、課外活動や寮生活等も重視している。課外活動では、硬式野球部が平成 29 年度選抜高等学校野球大会の 21 世紀枠青森県推薦校に選出されている。教育寮としての学寮は全人格形成に大きな教育効果を生み出しており、学習時間の設定や指導寮生、室長による低学年生への指導など、社会人としてあるべき人格を陶冶する徳育の場としても機能している。平成 30 年度にキャリア教育の推進と学生の支援を目的とするキャリア教育・支援センターを設置し、進路決定に向けた情報提供や学習支援を行っている。また学習支援としては、上級生が成績不振な下級生に個別に学習指導を行う学習支援メンター制度を平成 22 年度から実施している。本校卒業後の進路の状況は、過去 5 年の平均で準学士課程卒業生の約 40%が本校の専攻科または大学 3 年次に進学し、専攻科進学者の約半数が大学院へ進学している。就職希望者に対する求人倍率は 20～30 倍であり、就職率は 100%を堅持している。 地球温暖化や少子化など、人類がこれまで体験したことのない課題に直面する中、社会から求められる技術者象も課題解決型から課題発見・解決型へと変化している。このような社会のニーズに応えるため、「自ら課題を発見しその解決に向けて自ら学ぶ姿勢」を持つ実践的・創造的技術者の育成を教育目的の一つとして掲げている。校長の強力なリーダーシップのもと、平成 27 年度の学科改組と同時に全国高専に先駆けて 4 学期制を導入するとともに、自ら課題を見出し、正解の無い課題に対して解決策を探究する自主探究活動を導入した。さらに国際交流プログラムと連携した海外自主探究も推奨している。全員がその成果をポスター発表することにより、表現力やコミュニケーション力も養うことができる。 自主探究活動では、学生同士が進捗状況の報告と意見交換を行う学生相互報告会の教育効果が大きく、意見や質問をもとに学生が自ら考え、調べ、課題設定や方向性の修正などを行う過程を通じて、探究内容が自分のものとして定着している。最終発表会では、1 年次の学生でも教員や来賓からの質問に自分の言葉で回答し議論できているとの感想が寄せられている。 産業のグローバル化が進む中、本校では「異文化を理解する姿勢を持ち、必要な英語基礎力を備えた実践的・創造的技術者」の育成を準学士課程の目的に掲げ、海外の教育機関とのネットワークを構築し、14 年前から学生の海外派遣・受入を行っている。平成 28 年度からはグローバル高専拠点校として、海外の教育機関との連携を強化し、学生の海外派遣と受入れの拡大、教員のグローバル教育力の向上（英語力強化を含む）などの事業に取り組んでいる。平	

成 29 年度には準学士課程と専攻科課程合わせて延べ 72 名の学生を海外へ派遣するなど、「15 歳からの国際交流活動」を推進している。平成 30 年度にはタイ政府奨学金留学生受入校に採択され、31 年度から毎年 2 名ずつの留学生が準学士課程 1 年生に（平成 31 年度は 2 年生にも 2 名）入学する予定である。学寮 1 棟を外国人留学生と日本人学生が共同生活を行う国際混住寮へ改修し、日本人学生が日本に居ながら多文化コミュニケーションを経験できるシステムを構築中である。

本校は、平成 26 年度に地（知）の拠点整備事業（COC）「青森の資源や人財のコンピテンシ育成拠点プログラム」が工業高専としては唯一、単独校で採択された。また同 27 年度からは、弘前大学を中心とする地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）にも参画している。公開講座や出前授業、本校独自の「まちなか文化祭」などを通じて地域社会との連携を進め、地域企業見学や「あおり県企業内容説明会」を開催するなど、学生の地域への定着を図っている。さらに平成 29 年度 KOSEN4.0 イニシアティブ事業に採択され、自主探究の成果の知財化や海外自主探究推進などの事業を展開している。